

市民協働アンケート調査 (案)

調査へのご協力をお願い

日頃、市政にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

この調査は、「第2次協働推進計画」を策定するにあたり、市民の皆様のご意見を参考にさせていただくものです。

ご多忙のところ、誠に申し訳ありませんが、本趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力賜りますようお願いいたします。

※ 丸亀市の「^{きょうどう}協働」とは

地域のかかえている課題について

☆市民と行政が対等のパートナーとして、課題解決に向けて共に考え、協力して共に行動し、いきいきとした個性豊かで活力あふれるまち「丸亀」の実現を目指すものです。

【ご記入の前にお読みください】

- ① この調査結果を個別に公表することはありませんので、お考えになっていることをありのままにご回答ください。
- ② ご回答は各設問に対する回答のうち、あてはまるものの番号に○印を付けてください。
- ③ ご意見を記載していただく質問で、ご回答できない項目については、空白のままにしておいてください。
- ④ お手数をおかけしますが、○月○日(○)までに同封の返信用封筒で送付してください。

お問い合わせ先

丸亀市 生活環境部 地域振興課
コミュニティ・市民活動担当
電 話 : 24-8809
FAX : 25-2409

問1 あなたの性別をお答えください。

1. 男性
2. 女性

問2 あなたの年齢をお答えください。

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 16歳～19歳 | 4. 40歳～49歳 | 7. 70歳以上 |
| 2. 20歳～29歳 | 5. 50歳～59歳 | |
| 3. 30歳～39歳 | 6. 60歳～69歳 | |

問3 あなたの居住地区（コミュニティ）をお答えください。

- | | | |
|-------------|--------------|----------------|
| 1. 城北コミュニティ | 7. 飯野コミュニティ | 13. 栗熊コミュニティ |
| 2. 城西コミュニティ | 8. 川西コミュニティ | 14. 岡田コミュニティ |
| 3. 城乾コミュニティ | 9. 郡家コミュニティ | 15. 富熊コミュニティ |
| 4. 城坤コミュニティ | 10. 垂水コミュニティ | 16. 飯山南コミュニティ |
| 5. 城南コミュニティ | 11. 本島コミュニティ | 17. 飯山北コミュニティ |
| 6. 土器コミュニティ | 12. 広島コミュニティ | 18. 不明（ 町 に居住） |

問4 あなたの丸亀市での居住期間をお答えください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5年～10年未満 |
| 2. 1年～3年未満 | 5. 10年～20年未満 |
| 3. 3年～5年未満 | 6. 20年以上 |

問5 あなたは、協働について、ご存知ですか。

1. 以前から内容まで知っている
2. なんとなく言葉のみ知っている
3. 知らない

問6 丸亀市では「市民がつくるまち」の実現のために「市民と市の協働によるまちづくり」を進めています。このことについて、どのようにお考えですか。

1. 必要である →→問7へ
2. 必要でない →→問8へ
3. わからない →→問9へ

問7 必要であると考え理由をお答えください。 ⇒回答後、問9へお進みください。
(当てはまるものすべて選んで○で囲んでください。)

1. 幅広い市民等ニーズへの柔軟な対応ができるため
2. 費用の削減ができるため
3. 市民等の自治に関する意識の向上につながるため
4. 職員の業務に対する意識の向上につながるため
5. 市民等と職員間の相互理解が深まるため
6. その他 →→問15の意見1へご意見があればお書きください。

※市民等とは：市民・コミュニティ・市民団体・事業者

問8 必要でないと考え理由をお答えください。
(当てはまるものすべて選んで○で囲んでください。)

1. 協働に適した事業がない
2. 協働に適した市民活動団体がない
3. 特定の団体と協働をすることで不公平が生まれる
4. 協働をすることで多様な地域ニーズに対応できると思わない
5. 協働を行うことで余分な手間、時間、費用がかかると思う
6. その他 →→問15の意見2へご意見があればお書きください。

問9 丸亀市では、協働により多様な主体が有機的につながり、地域の活性化ひいては住みよい地域社会を創造していくための基本となる丸亀市協働推進計画（平成20年4月施行、平成20年度から23年度までの4年間の計画）を策定していますが、ご存知ですか。

1. 知っている
2. 知らない

問10 丸亀市協働推進計画では、下記の1～6の施策を中心に進めてきましたが、現在の施策が充実していると感じますか。

（当てはまるものすべての番号を選んで○で囲んでください。）

1. 広報、啓発活動 （広報誌やホームページ等による活動団体の情報などの発信、協働に対する教育の推進、啓発講演会の開催など）
2. 人材の育成 （市民活動・協働推進のための講座や具体的課題事例に基づくテーマ別研修会の開催、協働の取り組み先進地との交流、市民活動の体験の場づくり、地域活動への参加・参画の促進、市民活動の新たな担い手の育成など）
3. 活動基盤の整備 （市民活動推進コーナーの設置、市民活動活性化のための基盤整備など）
4. 相談窓口の設置 （協働についての問題の掘り起こしや課題解決への取り組みなど）
5. 交流、連携の推進 （情報交換など自由に利用できるスペースの設置、閲覧コーナーの設置、市の協働に関する情報の提供、情報共有のためのネットワークの構築、市民活動推進コーナーからの情報の発信など）
6. 市の事業への介入 （市民等からの提案による協働事業の実施、市が実施する事業への市民等の参画のための窓口の拡充など）
7. 充実していると思わない
8. わからない

問 1 1 丸亀市協働推進計画では、下記の 1～6 の施策を中心に進めてきましたが、現在の施策が重要であると感じますか。

(当てはまるものすべての番号を選んで○で囲んでください。)

1. 広報、啓発活動 (広報誌やホームページ等による活動団体の情報などの発信、協働に対する教育の推進、啓発講演会の開催など)
2. 人材の育成 (市民活動・協働推進のための講座や具体的課題事例に基づくテーマ別研修会の開催、協働の取り組み先進地との交流、市民活動の体験の場づくり、地域活動への参加・参画の促進、市民活動の新たな担い手の育成など)
3. 活動基盤の整備 (市民活動推進コーナーの設置、市民活動活性化のための基盤整備など)
4. 相談窓口の設置 (協働についての問題の掘り起こしや課題解決への取り組みなど)
5. 交流、連携の推進 (情報交換など自由に利用できるスペースの設置、閲覧コーナーの設置、市の協働に関する情報の提供、情報共有のためのネットワークの構築、市民活動推進コーナーからの情報の発信など)
6. 市の事業への介入 (市民等からの提案による協働事業の実施、市が実施する事業への市民等の参画のための窓口の拡充など)
7. わからない →→問 1 4 へ
8. その他 →→問 1 5 の意見 3 へご意見があればお書きください。

問12 人材育成を行うためには、特にどのような方法が必要だと感じますか？

1. 研修会の開催
2. 交流の推進 (市民等と市職員、市と自治会との交流など)
3. 体験活動の実施 (体験の場づくり、地域活動への参加など)
4. 市民活動ステップアップ
(新たな市民活動の展開や活動の幅を広げる事業の支援など)
5. わからない
6. その他 →→問15の意見4へご意見があればお書きください。

問13 市の事業への参入として、特にどのような方法が必要だと感じますか？

1. 市民等からの提案による協働事業
2. 市提案による協働事業
3. わからない
4. その他 →→問15の意見5へご意見があればお書きください。

問14 協働に関するご意見ご要望があればご記入ください。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

問15 問7、8、11、12、13の質問に「その他」を選ばれた方はご意見をお書き
ください。

意見1 (問7)	
意見2 (問8)	
意見3 (問11)	
意見4 (問12)	
意見5 (問13)	

ご協力ありがとうございました。

前回の意見結果について

テーマ「委員の固定化を緩和するには」

○推薦方法

- ・一般の方から、この人だと思う人を推薦してもらう。
- ・各コミュニティなどから人を出してもらう時に、「今までに参加したことがない人」という条件を出す。
- ・自治会などを利用して声かけしてもらう。
- ・定年退職者を中心に縁故や推薦からの声かけをする。

○募集方法

- ・応募期間を現在の「2週間以上」から「3～6週間」に。(長い方が良いのでは?)
- ・HP、広報のほか、各団体等にも案内する。
- ・学校の掲示板に掲示してもらうなど、掲示方法を広げる。
- ・簡単な説明と一緒に会議の様子を撮った写真を掲載するなど、どのようなことをしているのかわかりやすく掲載する。
- ・短期的な視点、長期的な視点に分け、どちらも実施する。

《短期的な視点》

女性のみならず、増やしたい層を決め、その層にとっての参加阻害要因を分析し、取り除く 又は 下げる対策を取る。

※重点層の例：20～30歳代の若年層、40～50歳代までの女性層、(地域間格差がある場合) 特定の地域、(職業間格差がある場合) 特定の職業

《長期的な視点》

住民参画に関する啓発(教育)を実施し、成人するまでに公募委員の制度や自分自身も委員になれることを理解してもらう。また、大学生委員を増やすことも身近なロール・モデル(お手本)として、効果的かもしれない。

○市民の意識

- ・ピンポイントの意見はあっても、広い範囲となると知識がついていかず、どうしても敷居が高くなる。
- ・誰かがなんとかするだろうと考える人が大部分であり、この打開策に尽きる。
- ・若い世代では、時間帯の問題や知識不足の点に不安を感じる。
- ・任期2年は短すぎるので、建設的な意見は生まれてこないのでは。

テーマ「女性の参加を増やすには」

○募集方法

- ・男女ともに参加を目指している旨を記載する。
- ・PTA 関連には人材がいると思うので、そういう場で募集する。
- ・わりあい若い女性は参加意欲があると思うので、その対策に尽きる。
- ・いろいろな情報を集め、こちらからアプローチする。

○テーマ

- ・子育て中の女性は子どもに関係する会であれば出席する率は高いのではないか。
- ・生活に密着した議事や興味のある議事議題
- ・女性が関心を持つことが少ないということではないか。

○問題点の分析、運営における対策

- ・まず、どうして女性の参加が進んでいないのかその問題点を明らかにして、その改善策を考える。
- ・重点層として、具体的に対策を講じる。
 - ①年齢層、あるいはライフサイクル（子育て期など）ごとに阻害要因を分析する。
 - ②その要因を取り除く、あるいは低める対策をする。
 - ③庁内の男女共同参画推進の関連部署、委員会と連携する。
 - ④男女共同参画推進に取り組んでいる NPO/NGO と協働する。
 - ⑤住民自治組織と協働する。
- ・会有的时候にボランティアに子どもを預かってもらって参加してもらおう。
- ・参加しやすい時間や女性のために考えられたシステムがあると良いのでは。

○その他の意見

- ・子育て世代の意見はまちづくりに必要であるため、学校や幼稚園など、PTA の人たちの参加が是非欲しい。
- ・公募委員の定数が少ないので、女性の参加数が少ないとは、一概に言えないのでは